

7 AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY



〈目標7〉 誰もが使えるクリーンエネルギー

すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

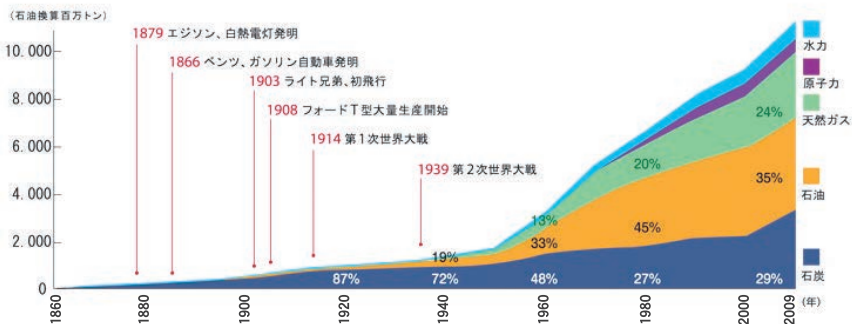
目標7の主な内容

- 安価で信頼できる現代的エネルギーサービスの普遍的アクセスを確保する。
- 世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。
- 世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。
- クリーンエネルギーの研究や技術へのアクセスを促進するための国際協力を強化し、エネルギー関連インフラとクリーンエネルギー技術への投資を促進する。

問題の背景

- 世界人口の5人に1人にあたる13億人が、まだ近代的な電力を利用できていません。
- 30億人が薪ストーブ、石炭または動物の排泄物を調理や暖房に用いています。
- エネルギーは気候変動を助長する最大の要素であり、全世界の温室効果ガス排出量の約60%を占めています。
- 風力や水力、太陽光、バイオマス、地熱など、再生可能な資源から得られるエネルギーは無尽蔵で、再生可能です。これらのエネルギーは、現在全世界のエネルギー供給の15%を占めています。

人類とエネルギーの関わり



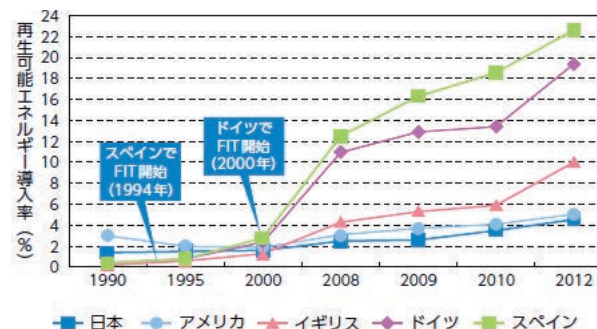
人の経済的営みとエネルギー需要は密接な関係にあります。今後、世界的に人口が増え都市化が進むと、ますますエネルギー需要が高まることが予想されます。

(NIRA「エネルギーを考える」に加筆により経済産業省作成)

日本の状況

- 1960年には58%であったエネルギー自給率は、高度経済成長期以降大幅に低下しました。
- 石炭・石油、液化天然ガス、ウランは、ほぼ全量が海外から輸入されています。
- 世界第5位のエネルギー消費国でありながら、原子力を含まないエネルギー自給率は約5% (2014年度) で、先進国の中でも非常に低いです。
- 日本でつくられる再生可能エネルギーは3.2% (2014年度)、大型ダムによる水力発電を含めても12%です。
- 2016年4月から、家庭や小規模な事業所でも電力会社を選べるようになりました。再生可能エネルギー供給をめざそうとする電力会社も誕生しています。

主要国における再生可能エネルギー導入率の推移



各国で再生可能エネルギーの導入が進んでいます。日本では2009年に太陽光発電の、2012年に太陽光発電以外の再生可能エネルギーのFIT(固定価格買取取り制度)が開始しました。

注:再生可能エネルギーには、地熱、太陽光、潮力、風力、バイオマスが含まれる。

(IEA「Energy Balances of OECD countries 2014 edition」を基に環境省作成)

地域からのヒント

香川県高松市では、「うさんこやま電力合同会社」が2015年に「うさんこやま未来発電所」を設立しました。市民がお金を出し合う「市民ファンド型」で、全国から集められた事業資金(志金)は発電所建設費用の一部に当てられ、配当には地域特産の讃岐うどんやオリーブ、うどん打ち体験ツアーが提供されます。回収したうどんを使ったバイオマス発電や「うどんまるごと循環プロジェクト」による循環型地域づくりも、今後への期待が高まります。



配当にうどんなど、地域色独特の展開も (写真提供:うさんこやま未来発電所)